

辻 彰洋：国立科学博物館における渡辺仁治コレクション整理の現状について

緒 言

故渡辺仁治氏の標本類については、生前の2002年に、スライドと液浸標本（オリジナルマテリアル）の大部分が本人のご厚意により、国立科学博物館・植物研究部に寄贈され、没後の2009年9月に残りの資料類がご遺族のご厚意によって寄贈された。

これらの標本類（コレクション）は、共同研究者であった浅井一視・伯耆晶子氏の協力により、多くの標本について種組成も含んだデータベース化が済み、種に着目した珪藻生態研究を行う上で、第一級の標本・資料である。また、このコレクションは渡辺ら（2005）の証拠標本としての側面も持ち、このモノグラフに掲載されてきた大部分のスライドやマテリアルが検索可能な状態になっている。本報では、このコレクションを今後の珪藻研究に役立てて頂くため、その現状について報告する。

コレクションの構成

1. スライド標本（4570組，7260枚）

渡辺仁治氏本人・共同研究者・奈良女子大学の学生によって作成されたスライド標本。多くの場合、一つのマテリアルについて複数のスライドが作成されており、TNS-AL-TW-xxxxxaという型番が付けられている。ここで、TNSは国立科学博物館・植物研究部のハーバリウムアクロニム（全世界の公開されている植物標本庫が保有するコード）であり、ALは藻類、TWは渡辺氏のイニシャルである。xxxxxの5桁はスライド番号であり、最後のaは同一マテリアルから作成された複数存在するスライドについてa, b, cと順次つけている。

スライド番号の多くは、共同研究者である元大阪医科大学の浅井一視氏が作成・管理していたデータベース（浅井DB）に入力した番号が、渡辺氏自身によってスライドラベルに記載されている。

スライドラベルには、地名、採集日などの情報が記載されている。浅井DBに登録されていないスライド番号を持たないスライドについては、当館で浅井DBと重複しないよう追番を振り、追加入力して管理している。一連の採集試料であっても、

その一部のみについて計数し、浅井DBに入力しているケースが多いため、同一日に採集した試料であってもスライド番号が連続していない場合が多い。

2. 液浸標本（未処理2800本・処理済標本1700本）

採集されたオリジナルの標本はスチロールの棒瓶に保管されていた。スチロール棒瓶は経年劣化によりひび割れが生じ、乾燥していたため、当館において、ガラス瓶（SV20）に移し替えを行い、ホルマリン（約5%）標本とした。

元々のスチロール棒瓶に記載されていたラベルの内容については、当方でコンピュータDB化を終えている。このラベル情報には産地や採集日・地点（Station）番号が書かれているため、スライド標本と合わせる事が多くの場合可能である。この作業は自動化が難しいため、スライドに対応するマテリアルが必要になった時点でデータベースを検索する方法で行っている。なお、地点番号については、出版物と異なる場合が多いので注意が必要がある。当館での整理作業中に、フロラ論文との採集地点の齟齬に気づき、確認したところ、採集時の地点番号は仮番であり、出版時点で水系に合わせて番号を振り直したとのことであった。スライド・マテリアル・浅井DB・写真類の全ての採集地点番号は仮番に基づいており、橋の名前やフィールドノートなどで地点の再確認をする必要がある。

3. 浅井DB（1207種類×5825地点=65788カウント（地点×種類））

渡辺仁治コレクションの多くのスライドは、渡辺仁治氏本人・共同研究者・奈良女子大学の学生らによって、種組成が計数され、その結果は、スライド情報・環境情報（BOD、水温、電気伝導度など）と共に、浅井一視氏によってデータベース化された。このデータベースは、NECのPC-9801のBASICおよび機械語によって作成されたものであり、最近の機械では動かすことが出来なかったため、浅井一視氏の協力により、当館でファイルメーカー社のリレーショナルデータベース（RDB）に移植を行った。このソフトにより、各スライドの

種組成の情報・各珪藻種の出現スライドの検索・各珪藻種の出現パターンを検索することが出来る。

当館が浅井氏から、このDBを継承した後、種組成情報のないスライドやマテリアルについても、このDBに新規入力を行い、一体化した管理が出来るようにした。

浅井DBで用いられている同定については、長年の間に分類学の発展に伴い、不適切になったものも散見される。しかしながら、それらについて、逐一修正をかけることは、種が分割されたものもあり、非現実的であると考えられた。そのため、本DBで用いる学名については、2002年に当館が浅井氏から引き受けた段階で凍結することにした。その後の学名の変更についてはコメントの追加にとどめ、基本的には修正しないものとする。

浅井DBには、故小林弘氏と共同研究者が、東京近郊の都市河川で調査したデータも含まれているが、これらの標本のついては当館の地学研究部の小林弘コレクションに存在するものと考えられる。

4. 「淡水珪藻生態図鑑」の原稿など (26冊)

渡辺氏が、筆者も含めた共同研究者と執筆した「淡水珪藻生態図鑑」の原稿が全て寄贈されている。重要な点は出版された時点では削除された各プレートの写真の採集地点が手書きで記入されていることで、この採集地点や浅井DB、後記する写真類によって、この図鑑の写真のオリジナルフィルムやスライド・マテリアルを探し出すことが可能である

5. 珪藻写真 (プリント; 採集地点毎, 144冊)

渡辺氏が計数に当たって、撮影し、2,000倍に伸ばした写真を貼り付け整理したノート類。地点毎に整理され、複製本されている。「淡水珪藻生態図鑑」の作成に当たっては、ここから写真が選抜されたと考えられる。

6. 珪藻写真 (ネガフィルム; 745シート, 約22000コマ)

ネガフィルムシートには採集地点 (とシートによっては年号) が記載されている。永久保存のため、当館でPrintfile社のネガアルバムに全てを移し替え、元のネガフィルムに記載されていた採集地点などの情報は、コンピュータ入力を行った。一部の写真については、プリントされた物 (31冊) が、

存在している。

7. フィールドノート (93冊)

渡辺仁治コレクションにおいて、スライドやマテリアルのラベルや浅井DBには、採集地点の詳細が記入されていないことが多い。そのため、報告論文に当たる必要があるが、上記したように地点番号が並べ替えられているケースが散見されるため、最終的にはフィールドノートとのクロスチェックが必要となる。フィールドノートには、地図等がはさまれていることも多いが、現時点では整理は未着手である。

8. その他の資料

その他に調査地や水質データ・発表論文の下書きなどが書かれたノート (87冊)・地図類 (56枚) や渡辺氏が同定のために、様々な論文から切り抜いて集めていた同定ノートや採集の様子を撮影した写真・現地地図などを受け取っているが未整理である。これらには個人情報や著作権が関係する物も多く、公開にあたって、慎重な検討が必要と考えている。

渡辺氏の自著の別刷り残部については、当館が標本と共に引き受け、管理する予定である。

以上の渡辺仁治コレクションは、2009年9月に最終的に引き受けたものを含むため、現状では、完全に把握できているとは言い難い。そのため、実数などについては増減が生じる可能性がある。最新の情報は、当館のホームページなどで公開していく予定である。

渡辺仁治コレクションの利用について

渡辺仁治コレクションの閲覧・貸出については、他の一般標本同様、辻・谷村 (2002) に記した国立科学博物館の基準に則って行います。詳細は、筆者までお問い合わせください。渡辺先生の御遺志を活かすためにも、多くの方々の標本の活用をお待ちしています。

引用文献

- 辻彰洋・谷村好洋. 2002. 国立科学博物館における珪藻標本の受け入れについて. *Diatom* **18**: 93-94.
 渡辺仁治・浅井一視・大塚泰介・辻彰洋・伯耆晶子.
 2005. 淡水珪藻生態図鑑. 784 pp. 内田老鶴圃, 東京.